

# 館外レポート2011年度

平和祈念展示資料館

## 2011年度

2012年3月29日	「語り継ぎカフェ -ある少年兵の証言-」
2012年3月29日	平和祈念展 in 府中
2012年3月29日	平和祈念展 in 呉
2012年3月29日	平和祈念展 in 釧路
2012年3月29日	平和祈念交流展 in 舞鶴
2012年3月29日	平和祈念展 in 長崎
2012年3月29日	平和祈念フォーラム in 神戸
2012年3月29日	平和祈念展 in 神戸
2012年3月29日	平和祈念フォーラム in 新宿
2012年3月29日	平和祈念展 in 新宿
2012年3月29日	平和祈念展 in 津
2012年3月29日	平和祈念展 in 沖縄
2012年1月16日	「語り継ぎカフェ」

平和祈念展示資料館では戦争の労苦体験をわかりやすく継承するため、コーヒーや紅茶を飲みながら、当館名誉館長・増田弘（ますだひろし）と参加者が気軽に語り合う「語り継ぎカフェ」を開催しました。

- 開催日：平成23年12月3日（日）午後2時～
- 会場：サロン・ド・富山房FOLIO（千代田区神田神保町）

当資料館の世古解説員の司会により始まり、増田館長が、兵士・戦後強制抑留者・海外からの引揚者の三つの労苦をわかりやすく解説しました。

途中、三つの労苦をテーマに、戦後、貴重なご馳走とされていた芋を使ったムースに「シベリア」が添えられたデザートでのブレイクタイムがありました。解説終了後には、質疑応答を交え、参加者の方に三労苦についての理解を深めていただきました。



平成23年度の第一回目は沖縄県・糸満市で開催しました。

- 会期：平成23年5月25日（水）～30日（月） 午前9時～午後5時
- 会場：沖縄県平和祈念資料館（沖縄県・糸満市）

平和祈念展示資料館は、さきの大戦での兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦について、全国の方々に伝えていくため、所蔵資料や写真などを活用した展示会を各地で開催しています。

当資料館所蔵の代表的な資料や写真のほか、沖縄県在住の元兵士の方から寄贈された軍隊手牒などをあわせて展示しました。□

労苦体験者の手記をまとめた『平和の礎（いしずえ）』の作品による朗読会も実施しました。



平成23年度の第二回目は三重県・津市で開催しました。

- 会期：平成23年7月21日（木）～24日（日） 午前9時～午後5時
- 会場：津リージョンプラザ（三重県・津市）

平和祈念展示資料館は、さきの大戦での兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦について、全国の方々に伝えていくため、所蔵資料や写真などを活用した展示会を各地で開催しています。

当資料館所蔵の代表的な資料や写真などのほか、「津市から出征したある男性が帰還するまで」として、当時の津市役所から発行された公文書や体験者が抑留先から家族に宛てた手紙などを含めて約123点を展示しました。□  
引揚者の体験を綴った絵本「おもいでのリュック」の朗読会も実施しました。



平成23年度の第三回目は東京都・新宿区で開催しました。

- 会期：平成23年8月9日（火）～14日（日） 午前9時～午後8時
- 会場：新宿駅西口広場 イベントコーナー（東京都・新宿区）

平和祈念展示資料館は、さきの大戦での兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦について、全国の方々に伝えていくため、所蔵資料や写真などを活用した展示会を各地で開催しています。  
終戦記念日を迎える8月には、当資料館近くの新宿駅西口広場で開催しました。

当資料館所蔵の代表的な資料や写真のほか、「新宿から出征した少年志願兵」として、当時、新宿に住んでいた方が出征するにあたって横須賀鎮守府から発行された公文書や軍歴なども展示しました。  
また、「平和祈念展 in 新宿」の会場から資料館まで5つのチェックポイントをまわるオリエンテーリングイベントも開催しました。



平成23年度は、終戦記念日の前日となる8月14日、大和田親子をゲストに迎え「平和祈念展in新宿」の会場と隣接するホールにて、約300人の方の参加により「平和祈念フォーラムin新宿」を開催しました。

- 開催日：平成23年8月14日（日） 午後2時～□
- 会 場：新宿明治安田生命ホール（東京都・新宿区）
- 出 演：大和田伸也（俳優）、大和田悠太（俳優）、生島ヒロシ（フリーアナウンサー）ほか

平和祈念展示資料館は、さきの大戦での兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦への理解を深め、□次の世代へ伝えていくため、平和祈念フォーラムを開催しています。

「あの労苦を知れば、今の幸せを知ることができる」をテーマに、2部構成としました。

第1部は大和田伸也さん、悠太さん親子による朗読劇。伸也さんが戦後強制抑留、悠太さんが兵士、親子で引揚げの労苦を朗読し、パフォーマンスグループSOUKIがその情景をパントマイムでわかりやすく表現しました。□第2部は生島ヒロシさんの司会によるパネルディスカッション。兵士体験者の鈴木忠典さん、戦後強制抑留体験者の児玉武彦さんが自身の体験を語りました。また実父が満州からの引揚者である大和田伸也さんは父から語り継がれたこと、そして悠太さんに語り継いだことなどを話し、それを受けて当資料館の増田弘名誉館長が語り継ぐことの大切さ、難しさを訴えました。□また、東日本大震災の影響で表彰式が中止になってしまった「平和祈念ビデオ制作コンクール2010」の受賞校の生徒が登壇、受賞の感想などを語りました。



平成23年度の第四回目は兵庫県・神戸市で開催しました。

- 会期：平成23年9月27日（火）～10月2日（日） 午前9時～午後5時
- 会場：神戸市産業振興センター展示場（兵庫県・神戸市）

平和祈念展示資料館は、さきの大戦での兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦について、全国の方々に伝えていくため、所蔵資料や写真などを活用した展示会を各地で開催しています。

平成23年度の第四回目は、平和祈念フォーラムin神戸とあわせて神戸市で開催しました。

当資料館所蔵の代表的な資料や写真のほか、兵庫県在住の画家、山下静夫さんが描いたシベリア抑留時の絵画など約149点を展示しました。□

また、シアターコーナーでは「蒼い記憶 満蒙開拓と少年たち」のアニメ上映会や、平和祈念フォーラムin神戸の司会・寺谷一紀さんが主催する朗読教室の生徒による「子どもたちに読み聞かせたい戦争の労苦体験を綴った朗読会」を開催しました。





平成23年度は、新宿に続いて神戸で開催しました。大和田親子をゲストに迎え、「平和祈念展in神戸」の会場と隣接するホールにて、約300人の方の参加により「平和祈念フォーラムin神戸」を開催しました。

- 開催日：平成23年10月1日（土）午後2時～□
- 会 場：神戸市産業振興センター ハーバーホール（兵庫県・神戸市）
- 出 演：大和田伸也（俳優）、大和田悠太（俳優）、寺谷一紀（フリーアナウンサー）ほか

平和祈念展示資料館は、さきの大戦での兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦への理解を深め、□次の世代へ伝えていくため、平和祈念フォーラムを開催しています。

「戦争体験を語り継ぐことの大切さ」をテーマに、2部構成としました。

第1部は、大和田伸也&悠太さん親子による朗読劇。伸也さんが戦後強制抑留、悠太さんが兵士、親子で引揚げの労苦を朗読しました。その後、「異国の丘」など、朗読劇中にある各テーマの曲を、神戸少年少女合唱団「アリス」が合唱しました。

第2部は、元NHKアナウンサーの寺谷一紀さんの司会によるパネルディスカッション。実父が満州からの引揚者である大和田伸也さんは父から語り継がれたこと、そして悠太さんに語り継いだことなどを語りました。朗読などを通じて平和の大切さを伝える活動を続ける、NPO法人国際朗読ことば協会の蔭山武人さん、広島を中心に平和関係の史料を収集・整理・公開している広島大学・小池聖一教授らが、「語り継ぐことの大切さ」をテーマにパネルディスカッションしました。



平成23年度の第五回目は長崎県・長崎市で開催しました。

- 会期：平成23年10月12日（水）～16日（日） 午前9時～午後8時
- 会場：長崎市立図書館1F 多目的ホール（長崎県・長崎市）

平和祈念展示資料館は、さきの大戦での兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦について、全国の方々に伝えていくため、所蔵資料や写真などを活用した展示会を各地で開催しています。

平成23年度の第五回目の、長崎は原子爆弾の投下という大惨禍に見舞われましたが、奇跡的な復興をとげた長崎市で開催しました。県内には、主力引揚港があった佐世保市もあり、さきの大戦における労苦と深く関わる地でもあります。

今回は当資料館所蔵の代表的な資料や写真などのほか、戦後、海外からの引揚者の受入業務にあたった佐世保引揚援護局ゆかりの資料など、約100点を紹介しました。



舞鶴引揚記念館と平和祈念展示資料館は交流事業として「平和祈念交流展」を開催しました。

- 会期：平成23年11月3日（水）～12月18日（日） 午前9時～午後8時
- 会場：舞鶴引揚記念館 企画展示コーナー（京都府・舞鶴市）

最後の引揚港となった舞鶴港の所在地である京都府舞鶴市には、引揚げと戦後強制抑留をテーマとする舞鶴引揚記念館があります。

「シベリアへ連れ去られた人々」として、シベリアに抑留された一般の兵士に注目し、抑留前の平素な姿の写真や、過酷な抑留体験の手記など当資料館所蔵の資料を展示しました。



平成23年度の第六回目は北海道・釧路市で開催しました。

- 会期：平成23年11月22日（火）～27日（日） 午前9時30分～午後7時30分
- 会場：市立釧路図書館（北海道・釧路市）

平和祈念展示資料館は、さきの大戦での兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦について、全国の方々に伝えていくため、所蔵資料や写真などを活用した展示会を各地で開催しています。

今回は当資料館所蔵の代表的な資料や写真のほか、「北海道、樺太、千島に関係する5人の労苦」として、北海道で徴兵された兵士がシベリア抑留後、函館に引揚げられるまでの資料や、樺太に住んでいた民間人の引揚げに関する資料、北千島の守備にあっていた兵士が抑留されて引揚げたときの資料を展示しました。□また、北海商科大学の竹野学准教授と当資料館の増田弘名誉館長とのトークセッション「海外からの引揚げ」や、紙芝居なども開催しました。



平成23年度の第七回目は広島県・呉市で開催しました。

- 会期：平成24年1月19日（木）～23日（月） 午前9時～午後6時
- □会場：呉市海軍歴史科学館 大和ミュージアム（広島県・呉市）

平和祈念展示資料館は、さきの大戦での兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦について、全国の方々に伝えていくため、所蔵資料や写真などを活用した展示会を各地で開催しています。

平成23年度の第七回目は、明治23年に呉鎮守府において以降、海軍基地の要所であった呉市で開催しました。

今回は当資料館所蔵の代表的な資料や写真のほか、「シベリア抑留と戦後の生活」として、広島県生まれで兵士となり、満州に渡ったのちシベリアに抑留された方の、軍隊生活の様子や、引揚げ後の生活を物語る資料など約17点を展示しました。



平成23年度の最後の展示会は東京都・府中市で開催しました。

- 会期：平成24年2月27日（月）～3月2日（金） 午前10時～午後8時
- □会場：ルミエール府中1F エントランスホール・コンベンションホール（東京都・府中市）

平和祈念展示資料館は、さきの大戦での、兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦について、全国の方々に伝えていくため、所蔵資料や写真などを活用した展示会を各地で開催しています。

平成23年度の最後の展示会は、平和都市宣言25周年を迎えた府中市で開催しました。

今回は当資料館所蔵の代表的な資料や写真など約106点を展示しました。また、2月26日に表彰式を終えた「平和祈念ビデオ制作コンクール2011」の受賞作品を上映しました。

エントランスホールでは、今年度の当資料館での企画展の紹介とともに、従軍カメラマン小柳次一氏が撮影した写真の一部をスクリーンで紹介しました。



平和祈念展示資料館では戦争の労苦体験をわかりやすく継承するため、コーヒーや紅茶を飲みながら、当館名誉館長・増田 弘（ますだひろし）を司会に体験者と参加者が気軽に語り合う「語り継ぎカフェ」を開催しました。□今回は「ある少年兵の証言」として、元少年兵・鈴木忠典（すずきただのり）さんが体験談を語り継ぎました。

- 開催日：平成23年12月3日（日） 午後2時～□
- 会場：サロン・ド・富山房FOLIO （千代田区神田神保町）
- 出演：鈴木忠典
- 司会：増田 弘

昭和18年に14歳で横浜須賀海兵団に志願して入団した鈴木忠典さんは、海軍の水雷学校で厳しい軍事教練を受け、潜水艦乗務員となって南方への出撃を繰り返しました。その後、硫黄島や沖縄へ台湾から物資を輸送する任にあたりました。終戦の1ヵ月後。何十隻もの米軍艦に取り囲まれ武装解除。沖縄へと移送され、イギリス軍の管轄下に置かれます。翌昭和21年4月、ようやく故郷へ帰ることができました。

ブレイクタイムでのデザートは、鈴木さんが物資輸送で乗艦されていた潜水艦に見立てたチョコバナナに、波をあしらった水色のゼリーが添えられた1皿でした。

その後の質疑応答で、若い参加者から戦時中の食糧事情についての質問がありました。また、戦闘の中で、生きることへの思いについての質問には、「最初から生きて帰るとは思っていなかったが、戦闘がない時は大きな声で歌を歌っていた。それで生きていることを実感し、明日への生きる望みを託していたのかもしれない」と締めくくられました。

終了後も、若い参加者の方々が鈴木さんに質問や感想を述べる姿が見られ、和やかな雰囲気での閉会となりました。

